

持続やそれ以降の発展がない以上、またしばらくの間はこのような状況の繰り返しが続く

であろうと、市中の各関係者筋では静観している。

企業

日立電線、「NH-WEP シリーズ」をラインアップ

日立電線は鉄道車両用電線・ケーブルとして、独自の被覆材配合技術によりハロゲンフリー化を実現した鉄道車両用ハロゲンフリー特別高圧ケーブル「NH-WEP シリーズ」をラインアップした。

同シリーズは主に高速鉄道車両への搭載を想定した定格電圧30kVの鉄道車両用ケーブルで、各種電線・ケーブルで培った被覆材配合技術と架橋ポリオレフィンを主体とする被覆材料を用い、従来品と同等の特性を持ちながらハロゲンフリー化を実現。BS規格(British Standard)で要求される難燃性、毒性、発煙性を満たしている。

近年、地球環境保全に対する関心が高まる中で、鉄道輸送は、輸送量に対するエネルギー消費量とCO2排出量が少なく、地球環境負荷低減につながることから改めて注目され、特に欧州やアジアを中心とする海外市場では、活発に鉄道網の整備が進んでいることから鉄道車両および部材への需要も高まっている。

また最近では環境負荷を一層低減するために、鉄道車両に使用される部品、材料に対して環境阻害物質の除外が求められており、

鉄道車両に使われる電線・ケーブルにおいても、塩素や臭素を含まないハロゲンフリー化への要求が高まり、このような中で同社はこうしたニーズに応えるために、独自の被覆材配合技術によりハロゲンフリー化を実現した鉄道車両用ハロゲンフリー特別高圧ケーブル「NH-WEP シリーズ」をラインアップしました。

同社は、各種電線・ケーブル製造で培った技術を活かし、以前より車体配線および車載機器に用いられる鉄道車両用電線・ケーブルを手がけており、安定した品質で高い評価で、新幹線、在来線車両および地下鉄車両などに用いられる様々な種類の電線・ケーブルが採用されているなど、国内市場においてトップシェアを獲得。また1980年代より輸出車両向けにも鉄道車両用電線・ケーブルの製造を行い、英国や中国大陸、台湾地域などの高速鉄道車両に納入した実績がある。

今後同社では、鉄道車両用電線・ケーブルの性能向上に向けた開発に注力するとともに、ラインアップを拡充していくことで鉄道車両用電線・ケーブルの拡販を図っていくとしている。

6月のアルミスクラップレポートおよび7月の見通し

橋本金属×アルミ 橋本健一郎氏

予測レンジはLMEが現物後場買いで

1850-1950ドル

スクラップは前月最終価格より

据え置きから-5円

■概況:前半は予想外の中国人民銀行による政策金利の0.25%上げなど欧州債務問題への対応策があったものの、ユーロ圏CPIが+2.4%だったことや米ADP雇用レポートも予測以下だった事。また第一四半期の米GDPが+1.9%と下方修正されたことを嫌気し下落1922ドルと約38ドル下落での前半締めとなった。

後半はギリシャ選挙で再建派が勝利したものの、中国HSBCのPMI指数が8カ月連続

50以下だったことや、期待のFOMC声明で金融緩和について否定的なコメントを発したことさらにスペイン金融機関の債権比率悪化に伴いスペイン債の利回りが7%をこえたため90ドル急落する流れであったが欧州会合で欧州安定メカニズム(ESM)から枠内の銀行へ直接資本注入できる仕組みに合意したとの報を好感し下げ限定的となった。

7月2日現在、LME(現物後場)は1,868ドルと31ドル下落のスタートとなった。

■前月の経済指標:日本自動車工業会によると自動車生産台数は前月比-2.3%の78万1349台であった。日本自動車販売協会連合会によると自動車販売台数(軽除く)は前月比+34.2%の31万7152台(前年比+40.9

%)。国土交通省によると新設住宅着工戸数は前月比(季節調整済み)+0.8%(昨年比+9.3%)の6万9638戸であった。

また財務省貿易統計によれば、輸出はアルミ新地金が前月比+74%の146t、2次合金が+9%の716t、スクラップが-2.7%の10067t。輸入は新地金が前月比-10.9%の13万1889t、2次合金が+20.3%の10万5156t、スクラップが+4.6%の711t、合金スクラップは-2%の3678tとなった。

■前月の国内指標：日本アルミニウム協会発表の圧延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前月比+1.2%の17万554t(昨年対比+0.9%)。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は前月比-6.9%の6万7721t(昨年対比+39%)であった。

■見通し：自動車関連は堅調、さらに住宅が底入れ、軽圧品も堅調の月となった。また欧州懸念も先日のEU会合で欧州金融安定メカニズム(ESM)から民間への直接投資が合意され、一旦は安定した。

自動車生産は前年比+60%の78万1340台と10カ月連続上昇。新年度後も堅調に推移。また国内自動車販売台数も31万7152台と前年比+40.9%と急上昇。前月に続き自動車関連のアルミ2次合金生産も昨年対比+39%と3カ月連続上昇、今後も増産予定となっている。

その他、住宅・家電需要が見込める圧延・押出品生産数は前月比+1.2%の17万554

t。昨年対比+0.9%と自動車・住宅に支えられ小幅増加。新設住宅着工数は季節調整前月比+0.8%の6万9638戸と前年比は+9.3%と大幅回復した。

輸入塊は上海シグマなどのハイグレード物で6月末現在、最高値2200ドル(-100)、ロシア塊は1900ドル(-80)。港値にすれば、185円、160円と185円前後の国内ものと同等か安め。

輸入は新地金が前月比-10.9%の13万1889t、自動車関連の2次合金は+20.3%の10万5156t、スクラップは+4.6%の711t、合金スクラップは-2%の3678tとなった。輸出は新地金が前月比+74%の146t、2次合金が+9%の716t、スクラップが-2.7%の1万1067tとなった。

アルミ原料需給に関して震災の復興需要が進み、新設住宅着工数は3カ月連続増加の+9.3%(前年比)と回復の兆し。先月も最大の需要家である自動車メーカーの自動車生産・販売共、+60%と+41%と好調維持。しかし2次合金生産は-6.9%(前月比)と伸び悩み、格安の輸入塊の増加が考えられ今後はこちらも生産は伸び悩むと予測。今月も2次合金メーカーは自動車生産の増産でかなりのオーダーを受けてるはず。ただし割安の輸入塊の入荷を背景に購買意欲はあまりない。

LME価格については弱含み横ばい。EU会合で合意した欧州金融安定メカニズム(ESM)による国債買取についてフィンランドな

品	3月	4月	5月
新地金	194 t	84 t	146 t
前月比	+30.2%	-56.7%	+74%
2次合金	1659 t	667 t	716 t
前月比	+8%	-60.4%	+9%
スクラップ	12860 t	11361 t	10067 t
前月比	+37.4%	-11.7%	-2.7%

品	3月	4月	5月
新地金	11万 9872 t	14万 7955 t	13万 1889 t
前月比	-3.3%	+23.4%	-10.9%
2次合金	9万 3728 t	8万 7399 t	10万 5156 t
前月比	+4.6%	-6.8%	+20.3%
スクラップ	1288 t	681 t	711 t
前月比	+41.2%	-47.1%	+4.6%
合金スクラップ	3622 t	3753 t	3678 t
前月比	+23.2%	-1.8%	-2%

